

1) 埋込形、半埋込形の取付方法

a. 鉄筋コンクリート壁の場合

コンクリート打放しの壁に埋め込む場合は、分電盤の箱体だけをじかに打ち込む。

コンクリート打放しの場合では、仮枠を躯体に打ち込んでおき、打設後、型枠を撤去し、躯体を削り取る。

コンクリート壁の場合、一般的には表-1の寸法を参考にする。

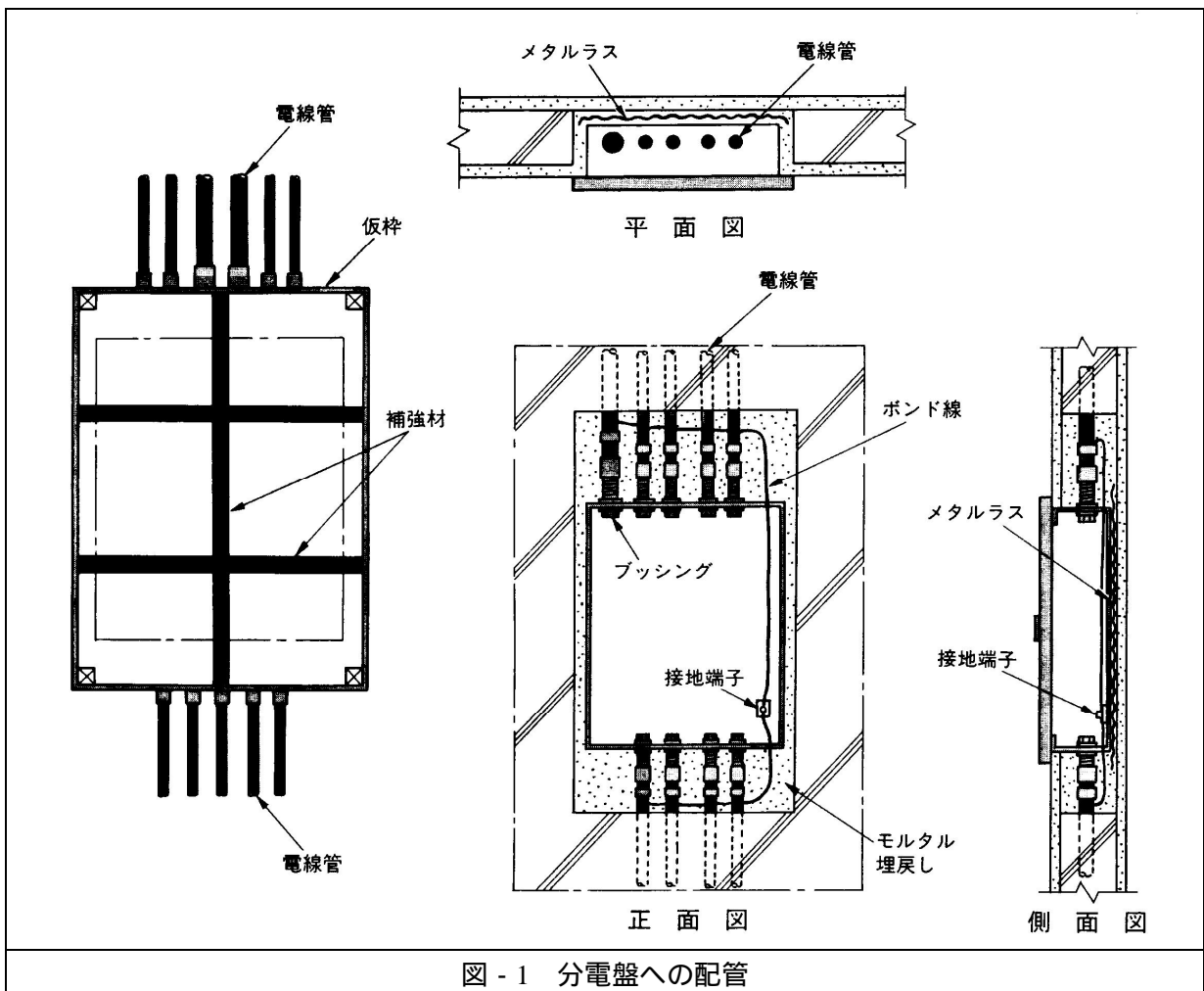
コンクリート壁の圧力によって、箱体や仮枠が押しつぶされないように、大径の鉄筋を仮枠の内側に配筋する。

箱体が埋め込まれた位置にライナー、クサビを用い、仕上り面に合わせ、

垂直・水平に固定する方法としては、壁の鉄筋に溶接、モルタルで仮止めし、ホールボルト締め、または溶接などの方法がある。

分電盤に配管する場合には、盤(箱)寸法と壁面仕上げ寸法などを十分考慮して取り付ける。

(図-1)



第1表 打込用仮枠の大きさ

幅	盤の幅 + 約 100mm
高さ	盤の高さ + 約 200mm
奥行	盤の奥行 + 50mm 以下

半埋込みの場合で、打込配管と盤の接続が容易でないときは、配管用のボックスを盤の背部へ取り付けておく。この場合、盤内の配線用遮断器などの状態をよく確認して、ゲータースペースにボックスの位置を決定する。(図 - 2)

埋込分電盤が薄い場合では、盤の背部にメタルラス張りを施し、壁のヒビ割れを防止する。また、壁の構造体には、その部分が空洞になることと同じなので、補強をしなければならない。開口部となる大きさなどによって、補強鉄筋のサイズ、本数などが異なるので、設計者、構造担当者と事前に打合せをする。

b . コンクリートブロック壁や軽量間仕切壁に埋め込む

大きな盤、重量のあるものは、鋼材などで架台を組み立て、先行取付けをする。小型・軽量の盤や配管を埋め込む場合は、壁のブロック積み完了後、十分な強度が出てからはつり込んで取り付けることと事前に設計者と事前の打合せがたいせつである。

軽量間仕切壁の場合は、鋼材の組立て後に箱体部分を仕上げ面に合わせて取り付ける。

2) 露出形

a . 使用

分電盤の取付け位置を、曲尺(きしがね)、水平器(レベル)などで建築基準墨に合わせ、壁の取付け位置に水平・垂直に取り付ける。

b . コンクリート

コンクリートの壁に取付ける場合は、一般的にホールインアンカが使用されるが、取付け面に凹凸が多少でもある場合は、ライナーなどで調整し、平均的に締付け、箱体をゆがめないように取り付ける。(図 - 3)

c . 強度のない壁への分電盤の取付け

コンクリートブロック、ALC 壁

構造体床に専用架台を取付け、それに分電盤などを取り付ける。軽量なものでは、壁にボルトを貫通し、裏側は平鋼などで補強し、箱体と壁とを同時に締め付けて固定する方法と、さらに軽いものであれば壁材に適合した専用アンカー(ナイロンプラグ、ねじ込みプラグ、締上げボルト)を用いて取り付ける。(図 - 4)

軽量鉄骨間仕切壁

間仕切下地材の組立ての時点で、所定取付け位置へ補強用の鋼材を壁の下地材と平行に取り付けておく。なおその鋼材に取付け用のボルト、またはナットなどを溶接しておくこと、後の取付けが容易である。

d . デッドスペースへの取付け

建築構造体のコア部分を石膏ボードおよび化粧パネルを用いて内装仕上げを施し、その内側（構造体と化粧パネルの間）を設備スペースとして使用する場合は、床に架台を据付け、その上に分電盤を取り付ける方法と、上部の梁と床を利用して鋼材を取付け、それに分電盤などを取り付ける方法がある。（図 - 5）

取り付ける物と、取り付ける場所を見極め、いずれかの方法を選択する。いずれも耐震に対する配慮を十分に施す必要がある。

e . 屋側・屋外への取付け

屋側、屋外への取付けには、ある屋外形を使用する。その取付けにおいては、雨水が建物などに浸入しないよう注意する。（図 - 6）

分電盤に施す防水コーキングは、必ず行うように注意する。

分電盤からケーブルが引出される場合は、必ず防水処理を行う。

取付け金物（ボルト・ナット）は、サビにくい物（溶融亜鉛メッキなど）を使用する。

取付け用のボルト・ナット類は、サビにくい物（溶融亜鉛メッキ、ステンレス）を使用し、また、ボルト・ナット部にキャップなどでシールするか、またはステンレス製とする。

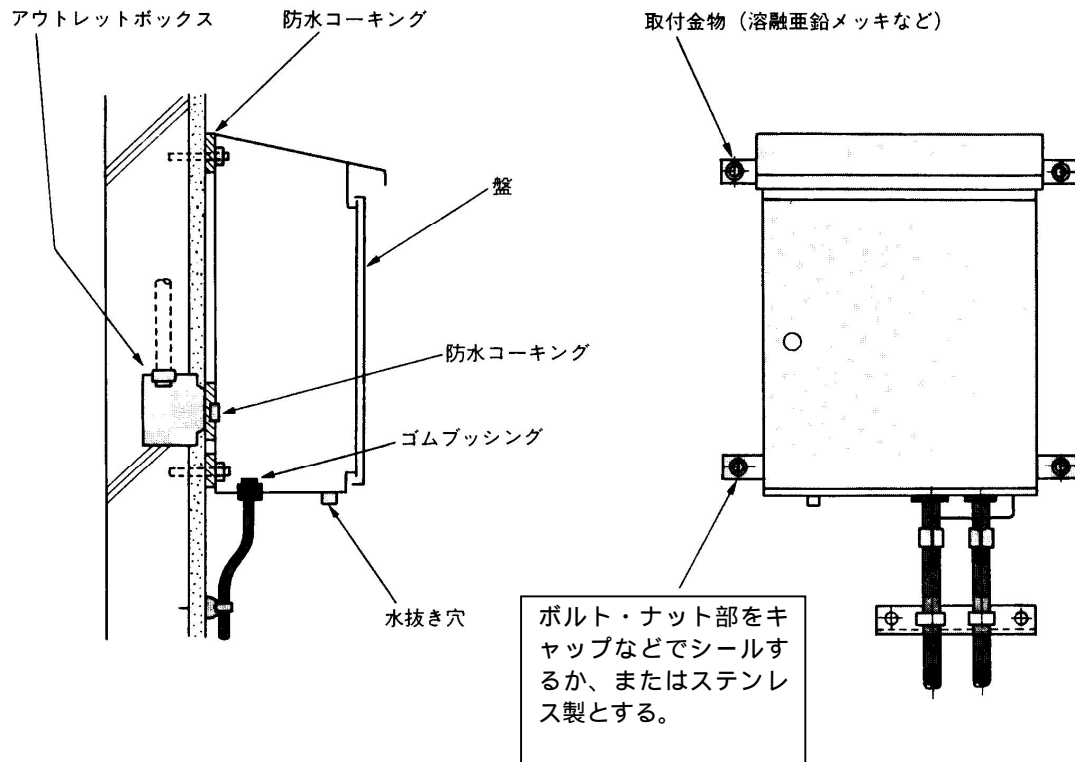


図 - 6 屋側・屋外への取付け

3) 取付け上の注意

- a. 湿気、腐食性ガス、粉じんの多い場所、爆発物のある近辺などには取り付けない(「内線規程」特殊場所参照)
- b. 盤前面から後面までの距離が 1000mm 以上必要である。また、盤の幅が 600mm 以上のときは、盤の両側から後面までの距離が 1000mm 以上のスペースを確保する。
- c. 取付け位置は、盤の両側から後面までの距離が 300mm 以上の範囲とする。
- d. 盤と接地端子を確実に接続する。
- e. 取付けする際は、盤内の配線や器具を損傷させないよう、鉄粉や鉛粉を落とさないように養生をする。また、箱部の塗装面も傷を付けないよう注意をして、加えて取付けを行う。